

その② - 視野拡大の必要性を再認識 -

このように書いてみると、本のすべてをいかにも理解できているようですが、実際はそんなことはありません。英語で読むことの困難はもちろんのこと、題材がアインシュタインの『相対性理論』ともなると、数式の意味を理解できない部分があつてもあります。

しかし教授は、「数学者ではないのだから、エッセンスを理解すればいい」と私たちに言いました。その言葉に勇気付けられながら、苦手だといって逃げてきた物理に正面から立ち向かっています。相対性理論は、常識として知っていなければならないことかもしれません。けれども、理解していなかった私にとっては、アインシュタインが何を主張しているのかを読み、彼の証明を納得できるまで考えるという今のこの行為が、非常にエキサイティングなのです。

まだ読んでいる途中ですが、この時点でも次のようなことを明らかにしているのだと言えそうです。真実は、どの視点 (frame of reference) から捉えるかによって違ってくるということ。たとえば時速 100 キロで走る電車の中で、AさんがM地点でボールを垂直落下させたとき、Aさんからはボールが垂直に落下しているように見えます。しかし、線路脇のM地点から見ていたBさんからは、ボールはカーブを描いて落下しているように見えます。どちらが真実なのか。どちらも真実たりえます。しかしそれは、どこを基準にしてボールの落下を見るかによって変わってくるのです。同じことが、時間や長さにも起こります。

相対性理論のエッセンスに近づけたことがあまりに嬉しく、上のように披露させていただきました。が、とにかく、これを理解することは、視野の拡大を留学の目的に掲げている私にとってとりわけ大きな意味があります。私は前号で、複眼的な考え方ができなければ、ものごとを見誤る恐れがあり、それを防ぐために複数の視点を持てるようになりたいと書きました。それは、上の例で言えば、自分が電車の中にいる場合、垂直に落下するという自分の見方だけが真実であると思つてはならないということ、そしてそれだけでなく、線路脇にいるBさんの見方を推測できなければならないということだと思います。留学生活が始まってまだ一ヶ月とたたぬ今、複数視点を持てるようになったとは思いません。しかし、これからこの目的に向かって努力していくのに際し、アインシュタインの主張は、その必要性を再認識するのにも十分な説得力を持っているように感じました。



アメリカの大統領選挙

- ローレンスの学生と大統領選挙 -

ディベートの日は、夜 8 時になると、各レジデンスホールのロビーが学生で埋め尽くされます。私は、9 月 26 日、10 月 7 日の大統領候補によるディベート、10 月 2 日の副大統領候補によるディベートを見ました。

補者の優劣もさることながら、私がより興味をもったのは、学生の政治にたいする姿勢です。ディベート後に、4 人の友人から話を聞きました。まず、関心の高さについて。これほど関心が高い理由は、現在のアメリカに危機感を持っているためでした。さらに話を聞いて、彼らが合理的に判断を下していることも分かりました。なぜこのようなことを言うのかというと、偏った見方を彼らがしているのではないかと思つていたからです。

というのも、「リベラルアーツの学生だから、多くの学生が民主党を応援する」という話を聞いたことがあり、両者の政策を見ることなしに、オバマの人氣に賛同しているだけなのではという疑念があつたのです。マケインやペイリンをあざけるのを何度も見ていたことも、そう感じさせる要因でした。しかし、教育、税、環境、外交における政策の違いをふまえて判断していることが分かりました。納得するに十分な根拠を挙げられたのです。それに加え、「ローレンスの学生は、根拠を持って判断できるくらいスマートだ」ともいわれてしまいました。

これは、私の知る一部の学生のことです。2 人がリベラル、1 人がインデペンデント、もう一人は不明だとそれぞれ自分のことを表現していました。彼らの考えを一般化することはできません。しかし、こうやってさまざまな人の話を聞いていくことが、アメリカ人の政治に対する考え方を知ることにつながっていくと思つています。また、自分の中にできてしまっているステレオタイプも、実際に話を聞く中でうちやぶっていかなければなりません。そのためにも、この大統領選は絶好の機会です。このチャンスを今後も生かしていこうと思つています。



このエッセイを読むと、アメリカの大学教育の一番基礎で、かつ質の高い教育を、宇野君が受けているのが良くわかります。

クラスメートとのディスカッションやディベートが、それが本や授業の中身だけではなく、大統領選挙であっても、大学生レベルで「考える」トレーニングになるのです。

好奇心一杯の宇野君のアカデミックな成長が楽しみです。続きのエッセイも楽しみにしています。宇野君、がんばってください。

